

会議録（要点記録）

令和５・６年度 堺市南区政策会議 堺市南区政策会議構成員と堺市南区選出市議会議員との意見交換会	
開催日時	令和６年１１月１５日（金） 午後６時００分～
開催場所	南区役所２階２０１・２０２会議室
堺市南区 政策会議 構成員	公益的活動を行う区民 大島構成員、岸本構成員（職務代理者）、木谷構成員、小林構成員 区長が行う公募に応じた者 北西構成員、鈴木有美構成員、向井構成員 学識経験者その他専門的知識を有する者 橋爪構成員（座長） 区域内で教育・子育て支援に関わる者 三戸口構成員、中島構成員、中辻構成員 区民の生活に密接に関わる民間事業に携わる者 今中構成員、鈴木京子構成員、中芝構成員
堺市南区 選出 市議会議員	吉川議員、田渕議員、三宅議員、小堀議員、 的場議員、信貴議員、伊豆丸議員、藤本議員
事務局 管理職員	南区役所 中山区長・阿加井副区長・松本副区長・杉参事・西参事 仲田総務課長・上山区政企画室長・川畑自治推進課長 牧市民課長・岡野保険年金課長・森岡生活援護課長 浅野地域福祉課長・百嶋子育て支援課長 為野南保健センター所長・檜本南保健センター所次長 市長公室 神田政策企画部先進事業担当課長 泉北ニューデザイン推進室 北口事業推進担当課長 石崎スマートシティ担当課長
議題	１．開会 ２．意見交換 第２期南区政策会議における議論内容や今後の方向性について ３．閉会

配付資料	・次第 ・配席図 ・資料１ 第２期堺市南区政策会議での議論について ・資料２ 評価シート ・資料２－２、２－３、２－４ 堺市南区政策会議３つの方向性評価シート ・資料３ 南区ウェルビーイング見える化プロジェクトのアンケート調査結果（概要） ・資料４ 南区のウェルビーイング像について ・資料５ 南区のウェルビーイング向上に向けた取組について
------	---

審議状況	開会（午後6時00分） 1. 開会 阿加井副区長 皆様、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまから、堺市南区政策会議に関する堺市南区選出議員の皆様との意見交換会を始めさせていただきます。 私、本日の司会を務めさせていただきます、南区役所副区長の阿加井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 失礼して着座にて進めさせていただきます。 それでは、開会に当たりまして、南区長の中山より御挨拶申し上げます。 南区長 改めまして、皆様こんばんは。本当にお忙しい中、この意見交換会に御出席を賜りましてありがとうございます。 趣旨としまして、少し遡って御説明をさせていただきますが、この南区の区政策会議は、まず南区の基本計画がございまして、その3つの基本方針がある中で、第1期これは令和3年度、4年度と行ったものですが、その3つの基本方針に基づいて3つの部会を設けて、様々な御議論をいただきました。 その中で、今後の取組の方向性という御提案をいただいております。我々その取組を着実に実現していくことが、何よりも第1期で御提案いただいた南区民のウェルビーイング、いわゆる私どもでは暮らしやすさや幸福度の向上につながるものと考えまして、この南区ウェルビーイングの向上のことを第2期のテーマとして、令和5年そして今年度の令和6年度と構成員の皆様いろいろな御議論を深めていただくとともに、私ども区役所が行っております施策や事業についての評価も併せて行っていただいております。 今年度、特にこの南区のウェルビーイングについて、一体どのような状態がこの幸せであったり、暮らしやすさであったりするのかなというところを、客観的な指標を使いました。 それが地域幸福度ウェルビーイング指標といった、国のほうの暮らしやすさや幸福感を数値化した指標であり、堺市と大阪公立大学SENBOKUスマートシティコンソーシアムの御協力を得まして、実証プロジェクトによる調査、アンケート等も行っていただき、その分析結果を基に、今年度構成員の皆様方にはその議論を深化させていただいたところでございます。 私どもとしましては、次の南区の基本計画を策定するに当たって、こちらでいただいた御議論、また方向性というものを最大限に区役所の事務事業に反映させていきたいと、方向性もその議論をもって新たに取組に反映していきたいという思いでございます。 今日は本当に構成員の皆様、また南区選出の議員の皆様の御出席を賜ったことで、今お示しさせていただいた資料や素案を御覧いただいて、様々な角度から御議論をいただければ、御意見をいただければと思っております。 何分時間のほうが大変限られた中で、十分発言できないというようなところがあるかもしれませんが、何とぞ熱心に御意見を賜りたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。 阿加井副区長 改めまして、皆様におかれましては何かと御多用中のところ、御出席を賜り誠にありがとうございます。 本日は会議内容の記録のため録音させていただきます。また写真撮影もさせていただきますこと、この2点につきましてあらかじめ御了承いただきますようよろしくお願いいたします。
------	---

それでは初めにお配りしております資料についての確認をお願いいたします。

《資料確認》

続きまして、本日出席者の御紹介をさせていただきます。
まずは堺市南区選出市議会議員を御紹介させていただきます。

《堺市南区選出市議会議員紹介》

阿加井副区長

藤本議員につきましては、別の予定が終了次第、出席いただける旨の御連絡をいただいております。

次に、堺市南区政策会議構成員の皆様を御紹介させていただきます。

《堺市南区政策会議構成員紹介》

阿加井副区長

なお、河端隆志構成員におかれましては、急遽欠席の御連絡をいただいております。

堺市からの出席者につきましては、お配りしております配席図にて御確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

では、本日の会議の進行について説明をさせていただきます。

まず初めに、座長から本会議でのこれまでの御議論内容についての御報告をお願いいたします。

その後、60分程度意見交換の時間を取らせていただきます。

なお、本日は19時30分の終了を予定しておりますので、皆様におかれましては進行に御協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

2. 議題

第2期南区政策会議における議論内容や今後の方向性について

阿加井副区長

それでは、次第の2のほうに移らせていただきます。

令和5年度から始まりました第2期堺市南区政策会議におけるこれまでの議論内容や今後の方向性につきまして、座長のほうから説明をいただきます。

それでは、橋爪座長よろしくお願いいたします。

橋爪座長

それでは第2期堺市南区政策会議の概要などを御説明したいと思います。

私、1期から継続して座長を務めさせていただいております。

令和5年度から今年度、これまで計5回の全体会議と高校生の方に参加いただく未来共創高校生部会を2回開催しております。

資料1を御覧ください。

第1期堺市南区政策会議で示されました3つの方向性に基づきまして、第2期では南区役所の事業について評価、検証をいたしました。

主なものとして、「南区ブランド戦略」に基づくロゴマークの決定、南区のウェルビーイングについての議論、イメージ像の提示、南区のウェルビーイングを高める取組についての提案を行いました。後ほどロゴマークなどはもう一度御紹介いたします。

	資料2のほうを御覧ください。 第1期堺市南区政策会議で示されました3つの方向性に基づく南区役所の事業について、評価・検証を行った資料になります。 構成員の皆様からは、おおむね「評価できる」との御意見をいただきましたが、個々の事業についての御提案については、施策・事業への反映を検討するように提案をいたしました。 続いてウェルビーイングに取り組む目的や意義について御説明をいたします。 先ほど申し上げましたとおり、第1期区政策会議では、3つの方向性を議論しましたが、第1期のときは、「スマートシティ」がキーワードでございました。堺市の施策の中で泉北はスマートシティの先導的な地域であるというふうに位置づけられておりまして、南区の特徴の一つともなっております。 その一方で国におきまして、地方活性化の議論の中で、デジタル田園都市というものの考え方が示されまして、そこにおきましてウェルビーイングというキーワードが示されております。ウェルビーイングというのは、一人一人の価値観を大事にしながら、住みやすい、働きやすい、楽しい、いろいろな日々の暮らしが充実していくような価値観をつくっていかうというものでございます。区民の幸福度の向上を図るために、南区のウェルビーイングがどのような状況にあるのか把握する必要があります。実態を把握し、南区のウェルビーイング像を提示し、政策や事業に反映させることが必要であるというふうに考えました。 このような背景がございまして、堺市・大阪公立大学・NTT西日本が連携しましてアンケート調査を実施してまいりました。その概要について別途事務局から報告をお願いいたします。 政策企画部先進事業担当課長 私から資料3、南区ウェルビーイング見える化プロジェクトのアンケート調査結果（概要）について、御説明させていただきます。 時間が限られておりますので、資料4、南区のウェルビーイング像についての議論の土台となった部分について、着座にて説明させていただきます。 まず、資料3の3ページの世代部分を御覧ください。 今回の調査では593名の方から回答を得ることができました。年齢を尋ねる質問に対して、回答しないと答えた3名を除く590名を三つの世代、40代以下単身・夫婦のみ、40代以下子育て中、50代以上に区分して、暮らしの満足度を分析しました。 4ページを御覧ください。 暮らしの満足度の分析方法になります。アンケートの問10、南区での暮らし、活動に満足されていますかと、問11、各項目について、南区での満足度を教えてくださいの回答を基に、各項目の満足度と暮らしの満足度への影響の相関分析を行いました。 資料右下のところに表が載っていると思うんですが、右上の青色部分、強化・維持の項目に分類するものにつきましては、満足度が高く、かつ暮らしの満足度への影響が大きいと考えられます。ここは南区の強みであり、引き続き高い満足度を維持するために、重点的に取り組む項目になります。 左上の黄色の要改善は、暮らしの満足度への影響が大きいにもかかわらず、満足度が低くなっています。ここは南区の改善ポイントであり、満足度を高める施策が必要となります。 右下の緑色、様子見は、ここに位置する項目では市民が特別に感じないという認識を持っている場合が多いと考えられています。 左下の桃色の注意は、ここを改善してもあまり暮らしの満足度が上がらない可能性もあるため、場合によっては優先度を下げてもよい項目となります。 次の5ページ、要因分析（全世代）を御覧ください。
--	--

全世代で見ると、南区の強みと言える右上の強化・維持領域の自然、医療機関の充実度、子育て、買物、自身の健康を高める環境の項目が属する結果となりました。この結果を基に、資料4、南区のウェルビーイング像が検討されることとなりました。

次の6ページから8ページには、先ほど世代に分けました三つの世代ごとの要因分析があります。後ほど御確認いただく際には、特に子育ての位置に注目して見ていただければと思います。

簡単に御説明しますと、40代以下単身・夫婦のみでは、子育ては左上の改善領域に属しています。一方で40代以下子育て中、50代以上では、右上の強化・維持領域に属しています。これは子育て中、または子育てを経験した50代以上の世代では、子育ての項目が強化・維持の領域に属しているので、40代以下単身・夫婦のみの世代に、南区の子育て環境の魅力が理解されているのではないかと考えております。

私からの説明は以上です。

橋爪座長

ありがとうございます。資料4を御覧ください。

先ほど申しあげましたように、第1期の区政策会議におきましては、スマートシティというのがキーワードでございました。第2期におきましては、ウェルビーイングというのを中心に議論をさせていただいております。

先ほど申しあげたロゴマーク等が、この資料4の左上に南区ブランド「M&GREENs さかいしみなみく」、「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」というふうな図になっております。

今回、先ほど御報告いただきました調査結果を踏まえまして、このような資料のような図を作っております。ウェルビーイングの考え方というのは、ほかの行政自治体とかと比較するのではなくて、各地域ごとに独自の考えを示しなさいというふうに、国のほうでは定められておりますので、南区らしいウェルビーイングは何かというものを示そうということで、この図を作っております。

今回の調査結果では、「自然」に関する満足度が非常に高く、南区の強みであり特徴であるということが改めて確認がされました。また「安心して暮らせる環境」「子育て」「教育」「買物」「自身の健康を高める環境」「医療機関の充実度」についても、満足度は非常に高かったという結果になってございます。

これまでの第1期区政策会議につきましては、「安全・安心」・「子育て・教育・健康長寿」・「ブランド戦略」の3つの方向性と合致していくであろうということに結論に至りました。

この結果を踏まえて、南区のウェルビーイング像に関しましては「豊かな自然」「緑道の魅力」といった南区の強みを生かしながら、「安全・安心」「子育て・教育、健康長寿」「スマートシティ」に関する取組を強化し、安全・安心、健康・癒し・自然環境などの豊かなライフスタイル全体を、南区の魅力として、南区ブランド戦略「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」を区内外に発信し、都市の魅力を向上させることが、ウェルビーイングの実現につながるものと考えております。

真ん中に木がありまして、矢印がございしますが、循環していくようなイメージでよい循環をつくっていかうというふうなイメージでこの図を作っております。

またウェルビーイングの向上を図るためには、年齢、性別、国籍、生まれ育った環境、障害の有無や種類、価値観の違いなどを肯定的に受け入れ、尊重するような「多様性の尊重」。若い世代と高齢者の多世代の交流により、新たな価値観や発想を創出する「世代のつながり」、防災対策や地域活動など地域間のコミュニケーションやつながりにより、ともに取り組む「地域の共創」というものの3

	点を持ちながら取り組むことが重要であるというふうに考えております。 アンケート調査結果やウェルビーイングのイメージから、今後に関しましては、第1期南区区政策会議の方向性を大きく変えるのではなく、取組を強化していく方向で推進していくと考えておりますことを、改めて申し上げたいと思います。 資料5を御覧ください。 このような議論、結論を踏まえまして、区民のウェルビーイング向上のための取組について御意見をいただき、議論を深め、取組例をまとめました。 第5回南区政策会議、全体会で出された意見を中心に御紹介をいたします。 まずイベントに関しまして御意見がございました。世代共通で地域イベントの満足度が低いことに関しまして、満足度を高めるような取組が必要であるということをお指摘いただきました。地域イベントは主催している人は地域の人で、参加する人も地域の人が多いと思われます。そのため、参加する人が主催者側になれば、よりイベントを楽しめる可能性があるというような御意見がございました。例えば外国籍の方、障害のある方を含め、様々な立場の方やもっと多くの世代がいろいろな枠組みを取り払って、区民が主体的に参加できるイベントが有効であるという御意見がございました。また大都市や民間事業者が主催するイベントと同じようにするのではなく、地域のニーズに応じたイベントが必要であるという御意見もいただいております。 二つ目でございます。健康長寿についてということで、南区の高齢化率は非常に高い状況でございます。健康長寿のために、運動が有効だということは区民も理解していると思われそうですが、運動の取組を進めることにより、医療費の削減につながったり、社会福祉費の支出削減につながるようなデータもございます。健康や運動の取組を充実し、長期的に見て医療費や社会福祉費の削減につながれば、ほかの施策事業、例えば安全・安心の事業等に充当されることができるようではないでしょうか。 スマートシティに関しましては、現在、オンデマンドバスの3回目の実証実験を実施しているところでございます。今回は乗車数の目標が1日50人ということでございますが、オンデマンドバスをより多くの方に利用していただくために、日々の利用状況をアプリなどで分かるようにするなど、区民への見える化が必要であらうという御意見がございました。区民のスマートシティへの理解と応援する気持ちを醸成しながら、業務に携わっている職員の方の達成感につながるというふうに考えると指摘いただいております。 また南区役所が推進するICTを活用したスマート区役所の取組に加え、土日祝日や夜間に対面の区役所窓口を開設することにより、ICTを利用できる人、利用できない人を含め、さらなる区民の利便性向上を図ることができるというふうに考えてございます。 魅力発信に関しましては、緑道が南区の魅力の一つであります。区民の方でも緑道が生活圏にない方は、ほとんど利用されていないと考えられます。そういう方々にも緑道の魅力を知っていただき、緑道を身近なものに感じてもらえるような取組が必要であります。 以上、示しました取組例は、南区政策会議が考える一例でございます。中には長期的な視点で検討が必要なものや行政だけではなく地域や関係機関、民間事業者と調整や連携の上で取り組むべき事業などがございます。 南区役所におかれましては、取組例を参考にいただきながら、区民のウェルビーイング向上のための施策を推進していただければというふうに考えてございます。 以上、南区政策会議での議論について、簡単に御報告させていただきました。よろしく願いいたします。
--	---

阿加井副区長

橋爪座長ありがとうございました。

それではこれより意見交換に移らせていただきます。

まず初めに、議員の皆様よりお一人ずつ順番に御意見をいただければというふうに考えております。時間の関係上お一人5分程度でお願いできたらというふうに考えております。

発言につきましては、伊豆丸議員のほうから座席の順番で御発言をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

伊豆丸議員

ちょっと気になったところでいうと、行政もそこら辺いろいろ政策推進してはいると思うんですけども、やっぱりそこと実際に住んでいる方のニーズがマッチしていないような部分も若干あるのかなと思っていて、地域イベントの満足度が低いというところですね。

これはもうどの世代にも共通しています。これはいろいろ施策の中で地域イベントを多くの自治体の皆様が担っておられると思うんですけども、先ほど資料の3の9ページでいうと、魅力ある街づくりに向けた要望・意見の中で、その自治会に力を入れてほしいという声が結構少ない印象を受けて、それよりも世代とか交通、あるいはその環境、安全安心というところのほうに要望が多いのかなと。

自治会、結局防災なんかでいうと、安全安心でいうと、最後は自治会の皆さんの協力とかも必要になるんですけども、なかなかそのメリットみたいなものが十分伝わってない部分もあるのかなという印象は受けました。

この地域イベントの開催も、自治体の皆さんの協力とか主催でよく行われるイベントもあるんですが、やっぱりそこに対する住民の皆さんとの認識のちょっと齟齬というか、そういうところはちょっとこのアンケート結果から感じるころかなというふうに思います。

以上です。

信貴議員

南区の魅力であるところの豊かな自然、緑道の魅力はありますが、これ緑道のところにまさに緑がずっとあるわけなんで、非常に連動しているところだと思います。

かつ、このことはもう別に今回限らず、ずっと前から南区の魅力ですよということで、この会議をはじめ、いろんな会議体、あるいは市民、区民の皆様方から御意見をいただいているところなので、まさにこういう意見を踏まえて、自治体はどういう対応してきたのか。例えば、道路はその緑道を舗装するのにどのぐらい予算が、これだけ大きくつけてきましたよとか、あるいは電灯が少なく暗いよという意見があったら、こんなに増やしてきましたよなどのお返事を、どのように返してきたのかというところが非常に気になるところであります。

そのことを示して、皆さんの意見が実際に施策に反映されてきたことは示していかなくちゃなんのかなと思います。そういう意味でいくと、魅力あるまちづくりに向けた要望・意見というところで、先ほどの調査結果の9ページにもたくさん示されております。

例えば、バスの本数を増やしてほしいなどの具体的な要望になっておりますが、若者の魅力的な町にしたいなど、その魅力的な町というのが何を指しているのかということも含めて、深掘りをしていくという作業がまさにできれば、皆さんが求めているものが何かということを正確に把握でき、またそれについてどんな取組が必要なのか、どれだけの優先順位をどうしていかなければいけないのかなど、具体的な議論に進んでいけるんじゃないかなと、この資料を見て感じたところです。

以上です。

的場議員

まず、このアンケート調査資料を見せていただきまして、非常に勉強になりました。この調査をやっていただいて本当にありがとうございます。僕も泉北ニュータウンで子育てが終わりまして、もう子どもも巣立っていきました。大体20代のときに、泉北ニュータウンで住み始めて今55歳なんですが、やっぱりウェルビーイングの資料とか、アンケートの結果をちょっと見させていただくと、やっぱりこの南区の環境だから提供できる、このウェルビーイング像というのにこだわっていくというのも一つの考え方なんかなというふうに思います。

ですので、求める幸福、自分が住んでいて幸せだなと思うウェルビーイング像が違う人は、またほかのエリアの選択もあるんじゃないか。この南区の環境とかを生かしながら、南区で追求できるこのウェルビーイング像というのをすごくまとめていただいたのと、このように思っています。

だからそこを個性的に伸ばして行って、共感する人が新たにここへ住んでいただくのと、あとは1点ですね、やっぱり30代の方も40代、50代、僕も50代ですけども、次は60代、70代、各世代で循環して暮らしていける町だなと思っていただけるかどうか、重要なのかなと。若い人ばかりやって、年いったらよそへ引っ越したほうがいいと思われぬように、この町で年を重ねても、しっかりと安心した各世代で楽しく暮らしていけるようなまちづくりというのが、やっぱりこの南区では目指していきたいなとこのように感じました。

以上です。

小堀議員

まずウェルビーイングの定義について、橋爪先生もおっしゃられたとおり、決まり切った定義はないと、ただ、どんどん決めていったらいいんだということなんですけれども、それぞれ皆さん御専門があると思うんですけど、例えば健康長寿の分野であれば、今これ安寧社会というのをウェルビーイングと読み解くというのも、今京都大学の近藤先生や千葉大学の近藤先生方が、今まさに提唱されておられて、そういった観点で申し上げると、やはり大学医学部の移転がもう来年に控えているという中で、この特定健康診査受診率、堺市平均よりは上回っていることは喜ばしいと思うんですけども、やっぱりウェルビーイングって非常に幅広いですけども、全世代として考えるならば、やっぱり防げる「0次予防」まで言われている時代ですから、やはりこれをどう引き上げていくのかというのは、これ全世代的にお考えいただきたいなというのがまずお願いですし、ぜひ皆さんのお知恵をお借りしたいなと思います。

あともう一点、基本計画を策定をする段階から、当時の佐小区長から我々御説明を受けてきて、そのときから申し上げてきたのは、区役所でできることには限りがあるけれども、子育て・教育ということについて、幸い前区長、現区長も、教育委員会で部長もお務めでしたので、市長部局と教育委員会とのこの壁はあろうかと思うんですけども、やっぱり教育というところにフォーカスをしてもらわないといけないんじゃないかなと。

実際この要因分析を拝見すると、40代以下単身・夫婦世代の場合、これ教育は上の左側ですね。40代以下ですから年齢は分かりませんが、未就学とか、小学校入学したてであれば、右側の下に来ているんですけど、50代以上のところで、明らかに学齢期に差しかかっていると思うんですけど、順位が非常に高いと思っています。

そういったこの教育の場合、いろんなその指標とかが習い事だとか、いろいろそういうことばかりが出てきているんですけども、例えば学校現場で本来解決すべき、学級で解決すべき、あるいは学年、あるいは学校単位で解決すべきい

じめなんかが、あるいはそういった問題が、学校だけで解決できない場合、すぐ市教委の生徒指導に行くのか。あるいはそういったこともしっかり伴走できるような、スクールソーシャルワーカーとかはここにいていただいていますけれども、そういった機能を区役所として持っていくのかとか。

あるいは今不登校であつたりとか、そういう取組については後ほどでしたら、子育て支援課長から御紹介いただいたらと思うんですけど、今南区のPTA会長さん方から非常に評価が高いのが、この各3駅に不登校の子どもさんへの居場所、テナポラリーですけど、御設置いただいたということは、高い評価をいただいていますけど、じゃあ今後それをどう拡充をしていくのかとか、あるいは今日おいでの先生方はそういうことじゃないと思いますけれども、不登校の子どもさんの場合、必ず学校に来なきゃいけないといまだに思ってる先生もいらっしゃる。その認識どうなのかというのを数字に落とし込むとか、いろいろな見方ができるんじゃないかなと思うので、そういったこともぜひやっていただけたら、非常に南区の魅力は高まっていくのではないかなと思います。

今回、南区のウェルビーイング像についてということで、子育て、教育を入れていただいています。けれども残念ながら、学習機会の確保、学習、習い事なんですね、ここは。とかではなくて、本当に学校に通えているのか。あるいはもっとというと、発達障害の方とか、あるいは支援学校や、あるいは支援学級に通っている子どもさんたちに、きちんと南区で寄り添えているのかといったところに着目していただきたいということをお願いしたいなということで、終わりたいと思います。

私からは以上です。

三宅議員

この魅力ある街づくりに向けた要望・意見なんですけど、これ世代とか交通とか環境とか行政とか、これ要は魅力あるまちづくりというか、これ市民の要望ですよ。

その世代に対して、例えば高齢者であれば高齢介護、若い世代であれば若い世代の住みやすい町ということで、自分のこの南区に求める像がもちろんここに要望・意見として出されているんですが、その中でやはり僕ちょっと南区の特徴として、環境整備58、団地の活用の推進ということが、やはり南区この公共のいわゆる府営住宅等の活用ですね。

これは今まさしく我々が住んでいる。そして後々にこの南区をどういうふうに伝達、続いていくかという課題となるんじゃないかと、皆さんも顔を見せていただいたら、非常にお若いので、近隣住区論のもそもそも泉北ニュータウンの立てつけな話は、もう皆さん御存じだと思うんで、この近隣住区論が、もはや泉北の町並みには合っていないということで、団地の活用の推進について、私はこれちょっと特筆して、これはやっぱり僕は行政が前面に押し立てていかなければならないテーマじゃないかなと思っていますので、特にここはやはり大阪府広域と協力しながら、町を俯瞰するような事柄はやっていかなければならないと思っています。

それから、ちょっと興味あるのが防災訓練ですね。興味あるが参加したことはない、興味はもちろん皆さん持っていていただいているんですが、じゃあなぜというところの深掘りですね。これはできれば専門委員会の中の皆さんで、例えばインセンティブが足らんのかな。あるいはもっと参加しやすい状況をつくり出さないといけないのかな。あるいは小学校、中学校の皆さんにも参加していただかないといけないのかな。学校でやっている訓練じゃなくて、地域に参加していただく防災訓練という観点ではどうなんかなというふうに、これ信貴議員もおっしゃっていただいたやっぱ深掘りということで、南区ならではの考え方ということで、同じくこの防犯対策で最も強化してほしい取組なんですけど、これは恐らく今

の治安とか社会状態で、オレオレ詐欺であったり、あるいは高齢者の住宅に計画的ないわゆる強盗とかいうような事柄の裏返しで、防犯カメラを増やすということなんですが、この防犯カメラは我々もこの議会で何回も、じゃあどこにどういうふうに効果的につけていくんか。あるいは、単一町会から連合からの要望はあっても、恐らくはその機器等に十分な金額の補助を出せないという状況がありますので、これ南区ならでは公園に防犯カメラ、これ堺市全体として設置していただいているんですけども、例えば、南区のこの高齢者がやはり高齢化率が上がっている状況から考えて、ここにやっぱり力点を置いていくんか。

あるいはこの子育てもそうなんですけど、やはり防犯カメラがあれば安心できる。今まで堺市は御存じのとおり、防犯カメラじゃなくて、防犯灯の電気代の補助は御存じのとおりやってまいりました。しかしながら、これはもうぼちぼち、もちろん防犯灯の補助というのは、この町全体を照らしていく、明るくしていく、防犯率を下げていくという一定の役割を担ってまいりましたが、防犯カメラへのシフトが必要になってきている要因ではないかなと思います。

終わりたいと思います。ありがとうございます。

田淵議員

まず今回の区政策会議の第2期目、様々な資料を見ていく中に、一つはいわゆる参加の構成ですね。特筆すべきなところは、学生の皆さんの声を聞くということ、非常に僕は特筆しているなと思っています。また先ほどアンケートの中で、500名を超える方々の世代間のバランスは非常によかったなと思っています。そういった意味では全て通して、いい方向に導いてくれているんだというのが実感いたしました。ありがとうございました。

それでこういったことを形にするためには、どこかの資料ありましたけれども、区がまとめて市に送られて議会で提案があると、こういうことなんですが、とりわけ七つの区の中でも、やはり南区の特筆、もっと言えば弱みをそれを改善するための予算ですので、ここはしっかりと区を挙げて、南区の一つでも改善できるように、堺市のほうにもアピールしていただきたいと思います。

項目の中で防災力の向上についてなんですけど、2点あるんですね、私が思うには。一つは人材育成なんですね。そういった意味では今回小学校を小学生が42%、約40名超える。非常にここは特殊なものであります。もう一つは、やはり技術を身につけていかなきゃならないんですよ。いざ防災といっても、やはり備える力、また避難する力、また地域の力、これ全部スキルアップなんですよ。

そういった意味では、人材育成とスキルアップ、セットものだと思っていますから、それ最後に誰1人残さない防災の取組ということなんですけど、一方で自治会の加入率も本当に向上しているものの、100%ではないんですよ。マンションであるとか、そういった意味では、全ての区民、市民を対象にした防災の取組も一緒になってくるのではないかなと思っています。そんなときに、その中では自治会の必要性、重要性というの訴えていく。こんなことも必要ではないかなと思っています。

またロゴですね、非常にこれ分かりやすいロゴだと思っていますから、またこれは胸にバッジつけて歩いていけるような普及をしてまいりたいと思っています。

一つ、住みよい町とはどういう町なのか。それは課題を解消していける、聞いていただける、そういう行政とのタイアップやと思っているんですね。その中で今三宅議員もおっしゃいましたけれども、やっぱり大きいのは居住環境だと思うんですよ。その中ではURもある大阪府もある。しっかりここは行政の情報を、住んでいる皆さんと共有しながら、何年度にはこうなる、エレベーターがつく、建て替えがつく、明確な声に言ってあげる。そして今日南海電鉄も来られていま

すけれども、交通機関とのオンデマンド等々ですね。それを補完するためのサービスをさらにやっていくべきだと思っております。そういったことができるならば、住んでみたいなというまちづくりにつながるかと思うんですね。

一つはやはり緑道、これ本当にすばらしいものだと思います。直線で約20キロ超えているんでしょうね。そういった意味では、これをさらに安全になるような、そういうふうなまちづくりをどうか進めていただきたいと思います。

よくぞここまでやっていただいたなと思っておりますので、これを形にできるように、さらに議会としても同じ思いで取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆さんどうもありがとうございました。

以上でございます。

吉川議員

冒頭座長のほうから御説明いただいた方向性については、大変よくお考えいただいて、その強みをさらに強くしていくということをおっしゃっておられましたし、ここにウェルビーイング像について記述いただいている内容というのは、ほぼ我々も考えているところとひとしく、それ以上にお考えいただいているかなというふうに思いましたので、この方向でいいのかなというふうに思います。

あとは、ちょっと私この南区の人口動態が今後どうなるのかというのを、ぜひ御協議いただきたいなというふうには思っております。世の中の推計の中で一番よく当たるのが人口推計だそうです。南区は急速に高齢化が進んで、堺の中でも一番高齢化が高いと。なぜそうなったのかというのは、これは必然的にそうなっているんですね。

南区の住宅の半分が公的賃貸住宅、その半分が大阪府営住宅25%ですね。残り25%が大阪府住宅供給公社と言われる住宅なんですが、大阪府営住宅というのはいわゆる名義人の方が亡くなると、1回しか地位承継ができないんですね。ということはあとは出ていけってことなんですね。ですから当然、そこには人口が定着する要素は、まず25%の住戸においてないということ。

それから、住戸の半分がいわゆる団地、それも50年前に建てられた団地で、今建て替えが進んでいるとはいえ、多世代が居住できるような住環境ではない。必然的に育っていった子どもも外へ出ていく。なおかつ、この南区には仕事がそんなにたくさんないわけですから、どんどん外に出て行かれるということで、いわゆるベッドタウン的につくられたこの人口、南区が今そういう状況になっている。

先ほど三宅議員がおっしゃった余剰地の活用、府営住宅の建て替え等のその活用が重要であると、私も全くそのとおりだと思うんですが、それは一朝一夕にいきませんので、じゃあこの南区で人口はどういうふうに変わっていくのかという中で、お住まいの皆さんが、本当に幸せに健康に暮らしていけるかどうかというのを、ぜひ一度御議論いただきたいという部分と。

あと、いっぱいお願いして申し訳ないんですが、評価の項目のところ、いろいろ評価いただいている評価シートもつけていただいているんですが、評価の指標というのがアウトプット、何とかを何回やるとか、そういうことをこれだけやるとかということに対しての評価指標の経過となってるんですけども、それをやったら何がどんなにあるのかという、アウトカム指標的な視点でもぜひ御評価をいただいて、御議論いただければというふうに思っております。

最後になりますけれども、堺市行政もこの南区でぼーっとしているわけじゃなくて、いろんなことをやってるんですね。子育て、教育、健康長寿に関して様々な施策展開をしています。

身近なところだと、高齢者を対象とした見守り事業だとか、一軒一軒訪問をして、お元気ですかという声かけの運動をやっています。そういう活動が、そういう施策が果たしてきちっと効果が出ているのかどうか。ぜひ皆様方の御意見をお

聞きたいところです。

行政のいいところは、本当によく考えていろんなことやるんですが、悪いところは1回やったらなかなか見直しできないところなんです。皆さんからの様々な御意見が見直しにつながっていけばというふうに考えております。どうかよろしくお願いします。

以上でございます。

阿加井副区長

ありがとうございます。先ほど藤本議員が到着しましたので、改めて御紹介をさせていただきます。

藤本幸子議員でございます。

先ほど座長のほうから、これまでの議論の内容について御報告をいただきまして、その後各委員の皆様から御意見いただいているところなんですけども、藤本議員からも何か御意見があれば、お願いいたします。

藤本議員

本日遅れまして、大変申し訳ありません。

今資料を見せていただいております、大変参考になるすばらしい資料だなと思っております。ウェルビーイング像ということ、様々個々にありまして、どれも大事な点だなというふうに思っています。

ウェルビーイングということ考えたときに、やはり一つはよき人間関係というものがあるかなというふうに思っております、よき人間関係の中でその地域の中での防犯ですとか、防災ですとか、子育てという点でも、やはりよいほうへ大きく前に進むのではないかなというふうに感じているところなんですけど、ただ、これを行政の側からつながりなさいと言って、そこを地域の中でつくれるものでもないというふうにも思っています。

ただ、この人とのつながり、その中でやっぱりよりお互いに話ができる、いろんなことが相談できる、この関係をどのようにつくっていくか。あらゆる場面、世代間でもそうですし、お互い共有する課題を持っている者同士、どのようにつくっていけるのかという点も、ぜひ皆さんの御意見を参考にしながら、私も考えていきたいというふうにも思っております。

先ほどから府営住宅の点についても、ほかの議員さんからも様々出ておりました。やはりこの課題も南区のことを考えるときには、外せないことだと思っております。特に府営住宅に今住まわれている方が、これから5年、10年となっていく中で、どんな暮らしをされていくんだろうかということが、すごく気にかかっておりまして、今でも高齢率が大変高いという居住エリアになっていますが、さらにここが孤立が極まってしまうのではないかな。ここに対してどんな働きかけをして、その方たちの孤立を防ぐ、つながりをつくっていくのかという点、これもやはりしっかりと考えていかなければいけないなというふうにも思っております。

今日もぜひ皆様のお話をこれから聞かせていただいて、私自身も勉強させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

阿加井副区長

ありがとうございました。まだお時間がございますので、さらに意見交換をさせていただければというふうに思います。

それでは追加でお配りをしております資料につきまして、中辻構成員のほうから御説明をお願いしました後に、議員の皆様、構成員の皆様、どなたでも結構でございますので、御意見を御発言いただければというふうに思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

中辻構成員

突然資料提供させてもらいましたですけども、私中辻は、皆さん御存じだと思いますけど、言いたいこと言いますので、大変失礼なことを言って後からひんしゅくを買うことはもう覚悟しておりますので、今日も言わせていただきます。

まず資料は何かと申しましたら、10月18日付で、令和6年、令和7年度、来年の保育施設に対する希望調査と受入れ可能数と希望調査に対する表です。

こちらで注目していただきたいのは、ナンバー3を見ていただきましたら、そこだけで結構なんですけど、まず定員が10年前の2015年から比べていったら定員が577名、つまり各保育施設が577名の定員を減らしている。5分の1減らしているんです。

それでなおかつ、右を見てもらうと分かりますけども、令和7年度来年の受け入可能数と第1希望数を割って充足率を見たら48%、つまり半分も満たない。定員は5分の1減らしても、減らしてもこんな状態なんです。だから小学校統廃合という前に、大抵あと数年たっていったら、保育施設のほうの統廃合あるいは廃止が出てくる可能性があると思います。

それが一番私が思うのが、皆さんウェルビーイングを第1期、第2期やらせていただいたんですけど、そのときに一番南区っていいやん。自分自身も再発見したんですけど、それに対して若い世代があまりにも南区のよさを認識してない。もうこれがすごく思います。

一番今回思ったのが、もうこの前の高校生の会議につけさせていただきましてけど、高校生って結構分かっているやんと、思っていること言うなというのがあるから、いかに今後は思うんですけど、南区で精華高校を、あれ中区ですけど入れて、7校も中学、高校があるんですよ。大抵、毎年五、六百人が新しい1年生で入ってくるんですよ。そういう子らを何とか南区のよさを分かってもらっていったら、その子らがここいいな、将来に住んでみたいなと思ってきたら、本当に変わると思うんですよ。

今確かに高齢者の方とか、いろんな問題があるかもしれませんが、今のうちに若い世代が南区に注目するような、そういうふうなイベントとかそういうことをやっていただきたいなとはずっと思うんです。だから今度第3期あると思うんですけど、第3期はウェルビーイングじゃなくて、いかに南区に呼び込むか。人を呼ぶかということをやりたいなと思っています。

だから本当にこの数字を見てもらったら、保育関係者とか含めて幼稚園関係者もそうですけど、危機なんですよ。子どもが増えないから、自分たちの仕事ができなくなるというのが今南区なんですよ。実際にじゃあほかの区はどうかというのは、中区なんかは74%から80%あるんですよ。中区であるんですよ。議員の皆さんにはこれ中区のやつは渡していますけど、そういう状態なんですよ。

だから皆さんの中で、今回一番危機感がこれだけ子どもが来ない、生まれないも含めて、どうしていくのかと思うんです。だから、一番ターゲットはそういうこと、中学生、高校生に対して、もっと南区に対するイベントを巻き込んでほしいなと思います。

例えば緑道を活用して、緑道のウォーキングラリーをやったりとか、こんなんやったら面白いぞとか、例えば各高校対抗のやつをやってもらうとか含めていって、南区のよさを分かってもらうことをやっていったら一番いいと思います。

それで、今回私が思ったのが、ニューデザイン室さんと南海電鉄さんすごいなと思ったのが、11月に入ってからまちの参観日という形で、堺市以外の方を呼び込んでいって、南区のよさを知ってもらって住んでみませんかということをやっている。まちの参観日をやっているんですけど、こういうことを行政と一般企業がやりはるわけですから、南区も含めて、もっとこういうことをやりはったらどうですかというのは一番思うことなんです。

もっと若い世代を巻き込むというか、それをやっていただきたいと、やってほしい。議員さんには何かといえば、いろんなところへ行って若い子来るような観光大使とか、何でもいいですけど、そういう形で何か南区に対して、してほしいんです。ほかの区では、すみません、ほかの区の方がいらっしゃったらごめんなさい。

中区、北区、堺区に比べたら、南区ってめちゃくちゃ緑があって、自然豊かであって、今後SDGsを考えていったら、絶対南区は住みよい町なんです。これをいかに南区の皆さんと一緒に、おいでませ南区へじゃないですけど、そういうことをやっていかないと、本当に今後は南区は衰退しかないと思います。そういう意味で、今回この資料、現実の資料と、ちょっと私が皆さんにひんしゅくを買うような御意見を言わせていただきましたですけど、本当に皆さん若い人が来る南区になるように、皆さんのお知恵を絞って、お願いじゃないですけど、一応今日保育を代表して言います。助けてください。このままやったら、南区の保育施設、あるいは幼稚園等は潰れていきます。近いうちに。それが現実なんです。

以上です。すみません、長々しゃべりました。

阿加井副区長

ありがとうございました。皆様方のほうから何か御意見、御発言等ございましたでしょうか。

向井構成員をお願いします。

向井構成員

すみません、今まで構成員をずっとさせていただきまして、課題というか、問題点というのは、今日議員の方々が全部総括してくれたような感じでしてたんですけども、ロゴマークまで決めまして、それをPRしていこう。主となるのが、この「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」じゃあ具体的にどんなコンセプトなのかというのも、なんか一くりにもう一回ちょっとコンセプトをつくり直してもいいかなと思うんですけど、例えばですけど、20年前にはやりましたスローフードという、そういうのがあって、例えばその食が安全ですよとか、もう産地が近い。

そこで例えば食からもう一度自分の生活を考えてみませんかみたいな、何かそれが例えば食育にもつながったりとか、子どもたちへ南区の豊かさみたいなね、例えばPRしていく上で、例えば南区へ行けばスローフードをやってるよとかね。何かそういう一つのコンセプトみたいなのが明確に分かるようなライフスタイルなどを入れたコンセプトとみたいなものを、もう一度ちょっとつくり直して、それを「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」というのは、そういうものであると。

これ例えば、JAさんなんかもありますし、ハーベストの丘、あるいはフォレストガーデンみたいなところもあるし、ほかにないような、そういうすごく近郊に緑豊かで産地もある。

それと先ほど信貴議員が言われた、その一つコンセプトをつくるというのは、50年前の我々がずっと続けてきたコンセプトじゃなくて、緑道あって緑が多いというのが我々の50年前のコンセプトやと思うんですけども、それを循環させていくという意味で、信貴議員が言われた循環させるような形のものを、何かもう一度さらに見詰め直して、まとめ直す必要があるかなという感じがしました。

阿加井副区長

ありがとうございました。ほかに御発言、御意見ございませんでしょうか。場の議員、お願いします。

的場議員

今ちょっと御意見いただいた中で、昨年ですかね、泉北高校の学生さんが学校の中で様々なワーキングというか、そういう課題事業みたいな形で、泉北ニュータウンのそのコミュニティとか、これからのまちづくりについて考える活動を泉北高校の学生さんがやっております、そういうその方々がレモンの木を泉北ニュータウンのコンセプトとして、泉北高校の中で、レモンの木を植えて、そしてまたレモンの実を何らか地域のコミュニティに、学校の中でやるんじゃなくて、学校から地域社会に入っていきたいというコンセプトで活動されておまして、一緒にそこから様々な活動させていただいて、レモンの苗木を学校の外に、何とか展開できないかということで、まずは苗木を買うための資金を稼ぐために、音楽フェスティバルで、缶バッジを全部自分たちでつくって販売したり、いろいろやったんですけど、なかなかお金も足りなくて、最後はニューデザインの方にお手伝いいただきながら、御寄附いただける企業もありまして、最終的にはビッグバンさんのほうでお受けいただいて、今、ビッグバンさんのところでレモンの木を泉北高校の彼女たちが植えてていうところの活動をやっているんですけども。

その中に出たのが、やっぱりそのレモンの木で、レモンの実ができて、それをやっぱり商品化していきたい。そういう泉北のレモンの物で加工品として、様々なイベントで提供したり、そういう活動の中で、自分たち高校生以外の地域の住民の方と一緒に輪になって、そういう活動で学校と地域住民と一緒にやっていきたいというような思いで活動をされています。

だから南区でいうと、レモンだけではなくていろんな農家さんもいますし、また南区特有の農産物を加工して加工品として、またそれを即売したりですね、そういうレモンの実もそうでしょうけれども、それも学校も含めて、こういった活動をコーディネートしていくような、そういった仕事もこの南区ではいいんじゃないかなと。それは学生さん、若い方だけではなくて、結構シニアもその高校生の方と一緒にやってというのもいいんじゃないかなと。

こういったところも一つの南区のよさを伸ばしていけるんじゃないかなって、ちょっと期待はしてるところです。

阿加井副区長

吉川議員お願いします。

吉川議員

先ほど向井議員がコンセプトをもう一度とおっしゃったんですけども、泉北ニューデザインのほうは、既にこの泉北でファミリー層が生活しているスタイル、泉北スタイルだったと思うんですけども、これをブランディングして、それを子育て世代に分かっていただくということを今展開していると思います。

確かに中辻先生がおっしゃったように、そうなることはもう目に見えていましたし、今日出されて、ああそうやかと改めて認識したんですが、必ず人口動態さっき言ったのは、必ずこれからがんと進んでまだ進みます。超高齢化を迎えて、その山を越えると、またその高齢者人口の比率が変わってくると思うんですね。そのときのいわゆる若年層の流入をどういう形で図っていくという、具体策が必要だと思うんですけども、既にこのウェルビーイング像について、子育て、教育、健康長寿という、ファミリー世代にとって重要な子育てと教育、この二つの要素を入れていただいているというのが大変ありがたいと思っています。

全国の自治体を見ても、ファミリー層が流入しているところというのは、ここが充実してるところが結構多いんですね。子育て、教育、特に教育環境だと思うんですね。

教育環境って何も勉強ができるだけではなくて、この緑豊かなこの環境も一つ

の教育環境だと私は思っていて、その二つの子育て環境と教育環境、これをどう強化をしていくのかという具体策、ここが若干弱い。それからスマートシティだって概念が理解されてないんでね、住んでる方に。スマートシティって何って。何か変わった乗り物に乗ることって、それ全然違うわけで、そういう世界に向けてよりこの地域でショップをつくるということも、職業ですよ。つくること一つ一つの視点として大事で、それはスマートシティを推進する中で、生まれてくると思うんですね。

会津若松が日本一スマートシティが進んでいる地域なんですけど、それは災害があったからなんです。災害があって国が大きな予算をちゃんとかけて、スマートシティを推進した。そのときに一気に、いわゆるそれを推進する人たちの人口が増えたんですね。ですから泉北ニューデザインコンソーシアム、スマートシティコンソーシアム、名前はどうでもいいんですけど、だからつくられているんですけどね。つくられているんですけども、その人たちが本気出してここに住んでやろうかというような方々が、あまりにも少ない。熱量が低いんですよ。本気出して、すみません、南海さんに入っていていて。

本気出して、この地でそれを推進していこうという熱量が足りない。そこが上がっていけば、あとはこのウェルビーイングを強化していただければ、中辻先生の心配も解消するんじゃないかなって。素晴らしいのは、私住んでて32年目なんですけれども、私ここに住んで、素晴らしい地域だと思っておりますので、ぜひともお力を出していただいて、よろしくお願いします。

阿加井副区長

大島構成員をお願いします。

大島構成員

ここのアンケートの結果でね、世代共通で地域イベントの満足度が低い傾向があると。これ見てすごいがっかりですよ。私たちは一生懸命しているつもりなんですけど、今議員さんたちの年代が、一番地域に出にくいお年頃だと思うんですけど、そういう方にとってイベントというのは、どういうイベントが出やすいんですか。それが一つ教えていただけたら、そういうのをしたいと思います。

それで、30代、40代の方がちょっと出やすいなと思うようなイベントがあれば、そういうのをしていきたいんですけども、その30代、40代の人になかなか地域のほうに出てきていただけないので、その辺がちょっと満足度が足りないのかなと思います。

それともう一点、中辻さんが先ほど、少子化の若い人たちが入ってこないっておっしゃっていたんですけど、それね、すみません、うちのことで申し訳ないんですけど、うちの息子が去年南区に住む段取りで探していたんです、家を。そのときにこの家賃が高くて住めないの、ほかの狭山のほうが安くてそっちに移る。

堺市は子育てするのにすごい環境がよくて、充実もしていますし住みたいんですけど、やっぱり家を探したときに狭山のほうが良いと言って、探したんですけど、そこは物すごいその30代、40代の方がたくさんいてはって、もう幼稚園でもあふれているんです。うちの孫はわざわざ高倉の保育所に来ているぐらいなんです。

ですから、もうちょっと家賃をどうにかしていただけたら、議員の皆様頑張っていただけませんか。前市長にも言ったんですけど、市長が大阪と東京に比べたら安いやろうと言われたんで、えっと思ったんですけど、そりゃ安いのは安いんですけどね。やっぱりその考えをもうちょっと改めてもらって、安くしていただいたら、もっと若い人も入れるような家賃でしていただけたら、ありがたいなと思います。すみません。

阿加井副区長

中辻構成員をお願いします。

中辻構成員

すみません。大島さん、また失礼なことを言うかもしれませんが、イベントに来てくれないというか、はっきり申し上げまして、今のニュータウンの自治会がやっているイベントって、魅力があんまりないですよ。

若い奴といったら、同じことを繰り返してやっていて、同じようなサークルとかがやって、同じようなお店が出て同じようなことをやってとなっていて、今の僕が泉北に関わったのは三十五、六年前からですけど、あんまり形が変わってないんです。

じゃなくて、今どんどん形が変わっていくから、新しい形を若い人にこんなんやっています、あんなやっていますという提供がないと絶対駄目だと思うんで、それともう一つあるのが、ちょっとすみません、言いたいことを言っています。

それでもう一つあるのが、若い世代が、例えば夫婦で来るというよりも、私一番思うのが、中学生、高校生がもう一回南区に帰ってきて住みたいなと、ここ南区で住んで勤務に行きたいなと思うようなものをつくっていったほうが、僕はいいと思っているんですけどね。世代が来てもらったら一番いいかもしれません。

そこから恋愛をして、また御夫婦だったりいろいろな形があると思うんですけど、とにかくそういう泉北で独身というか、単身の方って私が思う限り少ないなと思っているんですよ。そういう若い人が来てもらえるような、何かしらイベントというか、そういうものがないと、やっぱりつらい。

あと、すごい世代間ギャップがあるんですけど、若い30代、40代の人と、20代の考えている人と、私は60代ですけど、60代が考える人と、やっぱり世代のずれというのは大きいと思うんですよ。その辺りを私いつも思うんですけど、若い世代に対して、この隣が今中さんなんですけど、すごいまいことやってはるなと思います。例えば、軽音楽のイベントであつたりとか、高校生を呼んだりとか、そうやりながら、ダンスやりながらやっていますから、そういうことで、南区はそういうことやってる。若い人間が集まれるんだというようなことをつくっていかないと駄目です。

特に私が高校生会議に出たときに、今泉ヶ丘駅の前にあるあれ、なくなったんですけど、前に噴水があつて、その後に緑の人工芝のあれ、何やこれしょうもないもんやなと思ったら、高校生に聞いたら、そこが集合場所でそこに集まっているんな活動をやってるという。だから今はそれがなくなってしまったために、違うところに行かざるを得ないから、難波とかその辺に行っているということを言っただけで、高校生ってこういうこと、何もなくても、こんなことでもいいんかと思うような、そういうふうな若い世代が、南区に面白いやないかと思うような施策が絶対に要ると思うんですけど、その辺りどうですか。

今中構成員

ありがとうございます。私はこないだ南区のフェス、南ふれあいまつりかな、行かせてもらったり、竹城パワーフェスタへ行かせてもらったりしたんですけど、それはそれですごく盛り上がっているんですよ。あとハロウィンのイベントとかでも、ふだん人というか子どもがいない、槇塚台でハロウィンやろうって言ったら、それだけでなんか300人ぐらい子どもさんが来られたってことなんで、多分自治会さんでされる事業とかも、何というんだらうな、一概に全部古いというわけではなく、今容易に結構暖められてるのかなというふうに思っています。

ただ一方で、やっぱりどうしても今の人口比率的からいうと、高齢者が多いか

ら、だからもうちょっとバランスを取って、多様性がある町ということを考えた
ら、どうしても若い世代にフィーチャーしたいなというのは、私たち南海電鉄と
かも思っています。若い人が入ってきてもらうにはどうしたらいいのかというの
は、さっきから先生方もおっしゃっていますけど、今の公的賃貸住宅をどう再生
していくかというのは、これは一つ大事です。

藤本先生は、府営団地をもっとサステナブルに、同じ人が住んではって、次の
世代につないでいくようにというふうにおっしゃっていましたがけれども、それも
大事なんですけれども、今も50年前に造ってもう古くて、今時の子達が入りたい
と思うような、そういうスペックにない。そういう状態をどういうふうに打開
していくのかというの、結構大事なかなというふうに思っています。

すみません、マイクいただいたついでに恐縮ですけども、吉川議員、スマー
トシティは確かに認知はないんです。ただ、緑豊かな町です、緑豊かなニュータ
ウンですというのは、この日本全国ほとんどがそうなんです。その中でどうい
うふうに差別化できるかという中で、ITの力で何とかしていこうというのがコ
ンソーシアムなんです。

みんなでこの間のふれあいまつりに行かせてもらって、アンケートを取って
も、スマートシティって知っていますかっていったら、みんな知らないって書く
んですよ。でも、「へるすまーと泉北」という万歩計アプリ入れていますかって
いったら、入れている、入れてると。だからスマートシティのコンソーシアムで
提供している万歩計アプリは、結構皆さん入らせていただいている。でもそれがス
martシティの事業じゃない、それやけど何となく便利やし、何となく使えるから
やっていますというような、これこそが私スマートシティがどんどん入ってい
っている状況かなと。

今まではスマホさえ持っていなかったシニアの方々が、今は結構皆さん持って
はるし、そういったラインも使っておられる。アプリもいろいろ使い倒すよう
になってこられた。こういう辺りをちょっと御評価いただければうれしいなとい
うふうに思いまして、長々としゃべって申し訳ございませんでした。

阿加井副区長

小堀議員、お願いします。

小堀議員

向井構成員さんがおっしゃっていただいた、コンセプトを新しくしていくとい
うのは、私自身も本当にその重要性を感じていまして、よさは中辻先生もおっ
しゃっていただいたみたいに、みんな理解していると思うんですけど、訴求力ある
メッセージ性が大事だと思うんです。

実は私そこは、今中さんがいらっしゃるから言うわけじゃないんですけど、こ
の来年の春、新しい駅スク、泉北高速鉄道が南海さんと一緒になって、事実上南
海グループが、やっぱりこのまちづくりに責任を負っていただく。ある意味民間
企業さんですし、やっぱりこの本当に田園というと、我々このニュータウンの本
当にこの旧村地域とこのニュータウンの狭間を思い浮かべるんですけど、これ田
園に調布ってつけたら超ブランドじゃないですか。でもあれは、やっぱり鉄道会
社がああいう形でブランディングをしてきたという経緯があって、中身について
はやっぱり教育であつたりとか、特に吉川先生もおっしゃられたように、やは
り子育てだけじゃなくて、接続する学校での勉強だけではない、本当に一人一人
がちゃんと学べる学校とか、そこは行政がしっかりしていただくけど、それを一
言で表すというようなのは、やっぱり民間さんのほうが非常に上手やし、逆に
行政が下手に手を出さへんほうがいいのかなと思うんで、そこは逆に期待をして
いるところなんです。

中辻先生もおっしゃられたように、本当にこの数字はなつてしかるべき、そこ

でやはり我々も議員が申し上げましたが、やっぱり公的賃貸住宅の跡地活用であったり、建て替えによって生み出される余剰地、で大島委員がおっしゃったように、我々高倉台なんかはもう既に用途廃止されて、使ってもない団地がいまだに残っている。

じゃあそこをどうすんだというときに、一概に堺市今回だったらZEHという環境にいい住宅。でもあんな住宅に手を出してローンを組めるような人って、一定の所得階層しかいないよねと、じゃあやっぱりいろんな多様な住宅があって、賃貸もあったりマンションもあったり、あるいはそういうZEHがあったりとか、いろんな多様な住宅をどう提供していくのかというのが、やっぱり大事なかなと思うんです。

私も大島会長からお尋ねで、私も見てショックでした。ただ本当に子どもたちのために一生懸命やっていたというのは非常にありがたいのと、本当に常々思っていて、ただ一方で、高倉台校区さんのお祭りでPTAとして出店させていただいたりとかして、何とか辛うじて店番が回ってるのは、実はシフト制を組んで、もう保護者みんなに声かけたら、この1時間だけやったら店番してもいいよって言うてくださる方は、いらっしゃるんだというのが最近分かったんです。

ただ、それ以上になると、いずれ役員をやってくれてと言われるんちゃうかと思って、引き気味になっちゃったりするんで、固定化するより、せっかくまさにおっしゃったICTじゃないですけど、調整さんみたいな機能で、イベントごとに各自治会に入ってもらっしゃる構成員が入っていける。実際、正直本部役員以外で男性陣の参加はゼロだったんですけど、高倉台校区さん、今回花火やっていただけで、1時間の間子どもを見てくださったた夫さんが、帰りがけに花火の校区から一切立ち入らないように立ってくださいってお話しいただいたんで、急遽お願いしたら、それだけでよかったらやりますよって言うてくださったお父さんいっぱいいたんですよ。

だから、ミッション型みたいなのが、私どもまだ試行錯誤中なんで答えはないんですけど、漠然と地域のイベントに協力してって言うても、何をさせられるか分からなくなって思うだろうから、ある意味ピンポイントで花火の警備、この時間帯、その代わりに近くで見られますよとか、あるいは男性陣だけかもしれませんけど、その後場所を移して冷たい物でも用意していますよとか、じゃあ逆にそこで輪ができれば意外に面白いなと思って、できるんじゃないかなって、本当に今回、会長と地元で経験させていただいて、まだこの世代がイベントに参加するのは、ベストソリューションは見つかってないんですけど、ちょっとヒントをもらえたらなと思ったんで、ぜひ協議させていただきや、ローカルな話で申し訳なかったんですけど、お話しさせていただきました。

以上です。南海さん本当に頑張ってください、期待しております。

阿加井副区長

ありがとうございます。
向井構成員お願いします。

向井構成員

今言われた、私も連合自治会に足をちょっとどっぷり浸かっているんですけども、従来の連合自治会ではもう駄目や思います。

従来の連合自治会といったら、人が経験して育って、長年そこにじっくり構えながら、ボランティア活動やっていくと。そしたら下が育たない。今の若い子たちは全然やってこない。だから今言われた時間と場所と、何やってほしいかというのを明確にして、この時間手伝ってくれ、こんなことしたいという。もうそれを例えばLINEで流していくとか、何かそういう形のボランティアの在り方

たいなものを切り替えていかないと、もう駄目かなと思います。

先ほど言われた祭りも、自治会ではやっているんですけども、人の動員を参加者を集めようと思ったら、今子どもを連れてくる。伊豆丸議員も我々の祭りのときに、参加者として何かスマホで撮っていましたけど、お子さんが例えばダンスをやるとか、そういうダンスチームと話して、ダンスチーム、原山やったら原山のダンスチームを呼んできてやれば、この間なんか雨が降ってたんですけども、傘差しながら20人、30人のそこに人が集まる。

そうやって祭りも一つのまちづくりであり、春に実は防災のことがあって、単位自治会と話ししたんですね。そしたら、課題は何ですかって聞いて、まず安否確認を今年はやりたいんですって言えば、課題は何ですかって言えば、どんな人が住んでいるか分からない。単位自治会というのが、もうそういう状況なんですね。隣に誰が住んでいるか。例えば、2軒先に誰が住んでいるか顔も分からない。

じゃあ、その顔と顔がぶつかるような仕組みを、祭りで今回つくろうということで、ずっと春から単位自治会で話ししながら進めてきて、ようやく祭りのときに、それぞれの住区のテントをつくって、そこで自然と顔を合わせるようなそんな仕組みもつくってきたんです。そういう中で一つ一つやっているんですけども、場所的に言えば、地域とのつながりというのが全然人気のないところにあるわけです。

だからこの辺を、もうちょっと試行錯誤からこうやっていくんですけども、デジタルというのはそういうアナログが目的のために、手段としてデジタルというのはどんどんやっぱり活用していきたいんで、少しずつですけども若い人も、デジタルができるような若い人を、我々の自治会の中にどう組み込んでいくかみたいなのがちょっと課題で、今進めています。

阿加井副区長

ありがとうございます。ほかに御意見は。
岸本構成員をお願いします。

岸本構成員

岸本です。よろしくお願いいたします。

今、小さいことだと思いますけど、校区のことは校区で解決しようねということでございます。今日は南区のことなんで、政策会議、南区は誰1人取り残さないよというのを大前提で取り組んでいますけども、そうした場合、やはり人気のあるやつ、人気のないやつ、当然年代によって受け方が違います。

ですから、そういう面でどこに焦点を合わせるのか。若者に焦点を合わせたら、御高齢者何やと、御高齢者対象に合わせば、若年層が何やというふうになるのは、これ当たり前の結果だと思うわね。全部を満足させる、これは無理といえは無理なんですよね。何をするにしてもイベントをするにしても、やはり相撲大会するんだったら若年層は喜んです。でも高齢者さんは来ないよと。逆にそういった高齢者が喜ぶようなイベントをすれば、若年者は来ないと。どういうふうに焦点を合わせかによって、やはり満足度が変わってくると、全員を100%満足させるのはもう無理だというふうに言い切っても仕方がない面がございます。やはり何かするにしたら、全てを満足してもらうような体制づくり、これは行政さんと先生方のお力も当然要るでしょうし、予算もやっぱり変わってきます。

ほかの区の予算を南区へ取ってくるというのが、先生方のお仕事だというふうに思っておりますので、どうか南区を中心に考えていただいて、今日のこの政策会議を盛り上げていていただきたいというふうに思いますので、どうか本当に忌憚のない意見、これからお願いしたいですし、傍聴で来てください。実際の雰囲気を知っていただけるほうが、やはりこんなやというふうに資料だけ見

ても、分からんところは多々あると思いますので、どうかその辺を御協力いただきましたらありがたいかなと思っておりますので、これからもよろしくお願いします。

阿加井副区長

ありがとうございました。

中芝構成員、どうぞ。

中芝構成員

中芝でございます。先ほどから出ていましたイベントの件につきましてですけど、本当に地域のイベントというのは、やはり魅力ある住みたいまちづくりというところと、高齢者とかなかなか地域のつながりがない方の絆を結ぶ非常に重要なものかなというふうに思います。

今、御発言もありましたとおり、これから考える取組になりますのは、イベントを多種多様なことをしていくということは、非常に重要ですが、なかなか数も限界があると。地域のイベントの満足度が低いことって何が原因なのかなって、今後我々も含めて深掘りとか考えていかなくちゃいけないなと思うのは、そのイベントは実際、見えないところでたくさん実はやっているんじゃないかと。やっていることを皆さんが知らないだけなんじゃないかと。全員に行き渡っていないだけじゃないかってこともあるでしょうし、それをどんなイベントがあったのかを参加できなかった人、もしくは出歩くことができない人に知ってもらうための仕組みというの、あるいは実はイベントの数自体は結構充足してるんじゃないかという仮説もあるかと思えます。

そういうことを一つやっていくようなきっかけとして、例えば、なかなか全てのイベントとかをフォローするのは難しいんですけど、先ほども発言がございましたデジタルとかITの力を使えば、例えばイベント会場でやっているものを、定点ローカルなのか、皆さんが投稿なんかのショート動画なのか、いろんなことで録画しておきまして溜め込んでおいて、後から市の広報誌とか、駅の掲示板とかにQRコードをつけとけば、誰でもどんなイベントがあったんだと見れる。次回から参加してみようかなと、参加者としてもしくはボランティアとしてとか、そういったことを、今ですと、どうしても紙面の都合上とか、予算の都合上難しかったものが、動画とかだと 유튜브 とかに代表されますように、非常に無制限に置いていて、アーカイブもできていつでも見られると。

もしかしたら10年後、20年後の自分も若い頃こうだったんだと、子どもに紹介しながら、もしくは同窓会であいつがおるから、おれも一回住んでみようかなとか、そういったことにつながることもあるかもしれませんので、そういったことを一つ一つかなというふうに考えました。

ただ、なかなかそういった全ての会場に、みんなが個人で投稿してくれればいいですけども、全部のイベントを動かすのは難しいかもしれませんが、やはりこういうところって多世代とか、多様な方のいろんな未知の方にも届けるという意味では、無制限にあるリソースを使いながら、データの保存場所としては無制限に使いながら、いかにそのアクセスリーチをうまくするかってことで、そのQRコードとか、そういった紹介はしながら、また個人情報とか、顔出したら困るとかそういうのあるかもしれません。その辺りは行政のほうとかでも、このイベントのほうでは顔が映るかもしれませんがとか、うまくやっていただきながら、そういったのを盛り上げるための仕組みっていうのは考えられるかなと思えましたので、我々もそうですし、これからは議論できればと思っております。

以上です。

鈴木有美構成員

多様性の尊重で小さなイベントをたくさんやっているということもすごく感じているんですけど、多様性を尊重しようと思うと、たくさんいろんな方が来て、外国人の方とか、あと障害のある方もそうですし、移住されてきた方もそうなんですけれど、南区の従来のよさみたいなこととか、あと今まで議論に出てたような、何か30代ぐらいで結婚して、ここに移住して、子どもを産んでみたいな、モデル像ばかりを追いかけていくと、家賃と同じで結局人をふるいにかけてしまっていて、多様性でもなくなるし入っても来ない。

だから、私たち隣に外国人の人が引っ越してきても温かく受け入れるとか、ちょっと学校に通いにくい子や発達障害のある子とかが不登校で、もうこれはもうマイノリティというか、マジョリティーになりかけている。本当に多数の方がこぼれ落ちた方の多数の方を受け入れるというような施策や施設、それこそ発達障害に特化している幼稚園、保育園、あとは不登校の子を受け入れるような小学校とかをつくったら、多分1個2個とかできてしまうと思うんです。

ただ、そこには安全性とか、何ていうのかな、安全性ですね、隣に得体の知れない人が引っ越してきたというような感覚を覚える住民さんがたくさんいてるので、その感覚をいかに薄れさせるかということに重きを置いたら、多分人口は増えていくし、ちょっとその社会保障費がかかりそうな方ばかり来てしまうかもしれないんですけどでも、それでも腹をくくって誰でも来てください。自然もいっぱいあって、住みよい町ですよって言い切れてしまえば、多分ほかの地域とも差別化ができて、住みやすいよとか、こういう施策をやるよというところにぜひ議会で御意見を言うっていただけたら、予算を取っていただけたら、お金さえあれば幾らでも打ち出せる。施設を確保したりとかできると思いますので、ぜひよろしくお願いします。

阿加井副区長

ありがとうございました。
小林構成員をお願いします。

小林構成員

一つこの要因分析をまとめてくださった方に質問なんですけど、まず、要因分析の教育なんですけど、これ、それぞれに世代ごとにやってくれてるんですけど、例えば教育の40代以下単身・夫婦のみのところは左上の象限、それが今度子どもを持つようになると右下の象限で、50代以上になると右上の象限に上がるというトレンドを描くんです。

これってどういうことを表してるのか、ちょっと説明してもらえますか。どういうふうに捉えているのかでもいいです。

区政企画室長

すみません、40代以下の子育て中の方も、一応これちょっと位置が分かりにくいんですけど、右上のすみません、象限に入っているという位置になっております。

縦軸、横軸が薄くて見にくいんですけども、横軸の上にあるところが暮らしへの影響度が大きい部分、下にある部分が暮らしへの影響度はそんなに高くないという部分になります。

どの世代に関しても、子育てに関しては暮らしの満足度への影響度が高いというふうに見てるんですけども、今実際子育てに対して満足度がどうかというところに関しては、40代以下は低い。ただ40代以下の子育て中であつたり、50代以上の方に関しては、満足度に関しては高いというふうな分析結果として見えています。

なので、客観的な考え方というか、見てとれるのは、実際子育て中であつた

り、子育てを経た方に関しては、それなりに満足が高いけれども、そうではない、実際子育てをされてない方のイメージというのは、そんなによくないという分析結果かなと思っています。

ですので、これから子育てされる方に対して、南区というのは、こういうふうに実際に経験された方にとっては満足度が高いんだというところを、いかにアピールしていくかというのが根底にあるのかなというふうに考えております。

小林構成員

すみません。今質問したのは教育です。

政策企画部先進事業担当課長

教育ですか。すみません、教育のところなんですけど、40代以下、満足度への影響度の横軸になりますので、40代以下単身・夫婦でいうと40%から50%の間でやや低いかなという状況のところにいると考えています。

一方で40代以下子育て中とかになりますと、50%から60%、どちらかといえば60%寄りのところで見えてきて、50代以降でも60%のところにいるので、各項目の満足度という意味では教育について、子育てを経験された方については評価が高くなっているのかなとは考えています。

小林構成員

象限の話なので、満足度への影響度も含めて分析していただきたいんですが、それはしていない。

区政企画室長

すみません、40代以下の方に関しては、影響度が高いというふうになっているけれども、満足度は今そんなに高くないという状態で、子育て中の方に関しては、満足度はそれなりにあるけれども、暮らしへの影響度、満足度への影響度が低いという結果になってます。

50代以上の方に関しては、満足度もそれなりに高いし、影響度もそれにあるというふうな分析結果にはなっているんですけども、なぜちょっとこういうふうになるのかということまでの深掘りというのは、すみません、今回のアンケート結果ではちょっと分かっていないというのが現状です。

小林構成員

仮説をお伺いしています。

区政企画室長

特にちょっとすみません、今回の分析結果で仮説というのは立てられていない状態です。

小林構成員

これは私の考えですので、影響されなくてもいいんですが、これを見る限り私は40代以下の単身夫婦というのは、教育に対して期待をしている。ある一定の期待があるに対して、今の満足度が低いから、それに満足する人だけが子どもを産んで育てると。今の南区の教育水準に満足してる人だけが、結局定住するんじゃないかというふうに思いました。

やっぱり、まだ子どもさんがいらっしゃらないんだけど、だけれども結婚してる人にとって、教育というのがすごく大事な要素なんじゃないかなと思っています。それは定住するに当たって。多分なんですけど、うちの校区だけを見た場合に、桃山台とちょっと合算して人口動態を見たんですが、実は10年前の年

齢の例えばゼロ歳の子が10年後の今10歳ですよ。その傾向のグラフと、口で説明するのは難しいな。

10年前にいた人が大抵うちの校区に住んでいます。それは一旦就職とか世帯分離で出てはいきますけど、一旦定住した人が比較的多い方、比較的大多数の方が残って住んでくださってる。それはやっぱり南区であれ、泉北ニュータウンであれ、それは私が実際に聞く声と結構一致してて、すごい住みやすいよねって皆さんおっしゃるんです。

でも、やっぱ教育に満足してない方たちというのは、私学に入れたりとか、大学もほかの地域に行く。東京のほうが教育遡及は高いという。まあ選択肢も多いのでという前提で、やっぱりいざ子育てするってなったときには、首都圏に移住するんじゃないかなと思ってます。

今始まる前に北西さんとお話をしていたんですが、大学入試の形態も変わってきてますし、やっぱり探求的な活動を幼少期から積み重ねていって、それこそデジタルにつなげていくというのって、やっぱり継続的な取組がすごく大事で、小中学校の先生はもちろんやりたいんだけど、それを継続的にできる環境が実は整っていないんじゃないかなと思ってます。

首都圏のその偏差値とか、教育費の高さにあらがって、何か引き寄せようと思うと、こちらの南区不便でひょっとしたら仕事がないかもしれないという状況、遠距離通勤になるかもしれないという状況を、乗り越えて帰ってくるとか、ここに移住するというのは、やっぱり教育水準、今の時代にあったその教育内容をやってますという打ち出しって、すごい大事なんじゃないかなと思うんです。

さっき鈴木さんが言ったような、多様性を認めるような精神性とか、実際にできる行動みたいなものを倫理感みたいなものを持つて子どもたちを育てていく。いろんな人とコミュニケーション、どんな人とでもコミュニケーションを取れるような、セルフコントロール能力を身につけていく。

これ多分中辻先生が言ってくださったセカンドステップという授業があったと思うんですけど、いろんな自分とは違う人との折り合いをつけていく力、自分の気持ち、心と向き合う力というのを育てていくというのを、やっぱり幼少期にすごく大事な要素で、何かその部分でなかなかほかの充足してる保育園、こども園ではなかなかできないことだと思うので、やっぱり自然に触れるというのも、幼少期にすごい大事で、幼児教育とその次につながる初等教育、中等教育が繋がってる、一体でつながってるということがすごい大事なんじゃないかなと思うんです。

それができる環境が、多分泉北ニュータウンにはあるんじゃないかなと思うんです。なぜなら、自然だけじゃなくて、人もたくさんいて、かつそのスマートシティというものを導入しようとしてる。ただその道具を追求するというよりは、実際のアナログとつなげていくという、実際のその現場に触れていくという、素材がたくさん転がってる場所だと思うので、何かそういうものを南区全体で取り組んでいけるようなことを、ぜひ1年、2年で終わることじゃないと思うんです。10年、20年多分かかることで、それによって主体的に自分たちの町をよくしていこう、取り組んでいこう、こうやって変えていこう、みんなで話し合っやっていこうという人たちが育つんじゃないかなと思うんです。

短期的にいうと、中辻さんとか南海さんがやってくださってるような、こういう取組をやってます。こういう町なんですよという告知って、告知というか広報ってすごい大事なことやし、それを入り口にしてもらうというのは、それは短期的にはすごい大事なことだと思うんですけど、長期的に見た場合に、今の連合知事会でも課題になってる、主体的にそのときだけ関わるんじゃなくて、主体的に継続的に自分の町のこと、暮らしのことを考えていく人というのを、多分行政と一緒に、市民も一緒に、何か育てていくというような考え方って、すごい大事なんじゃないかなと思うので、何かそういうことを実現できるような施策と一緒に

	つくっていきたいなと思っています。 すみません、長くなりました。ありがとうございます。 <u>阿加井副区長</u> 皆様、ありがとうございました。 それではお時間がかなり超過してしまいまして、申し訳ございません。 本日の意見交換会につきましては終了させていただきます。 本日は議員の皆様からの貴重な御意見をいただき、大変有意義な時間ができましたことを感謝申し上げます。 本日の意見交換会の内容は、全体会やその後の南区の取組に活かしてまいりたいと考えております。 なお、堺市南区政策会議につきましては、令和7年2月5日18時30分から、南区役所201・202会議室で全体会の開催を予定しております。 本日はお忙しい中誠にありがとうございました。 閉会（午後7時47分）
--	---